



戦争反対！憲法九条の理念で世界平和に貢献する国であり続けることを願いつつ、
職員一同、健康友の会・地域の他事業所と力を合わせて、
これからも医療・介護・まちづくり・いのちとくらしを守る運動にまい進してまいります。

2022年7月

信和会理事長 小林 充

新型コロナウイルス感染症が、日本に上陸してから2年半以上が経過します。新型インフルエンザ流行の際の教訓への対応を怠り、一路保健行政・社会保障を切り捨ててきたつけのために、格差拡大に拍車がかかった年月でした。

そこへ戦争です。今年2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻は泥沼化の様相を呈しています。ある時期からは、停戦協議も行われなくなり、どちらかがどちらかを大きく押し込まない限り終結しない状況に至っています。

双方に万単位と思われる犠牲が積み重なり、何百万という難民と家族を失う悲しみが生まれています。世界中で物価が上がり、誰もがこの戦争から被害を受けています。

そもそも戦争などしている場合なのでしょうか、世界的にはまだ峠の見えない Covid19 パンデミックに加え、気候変動への対応は待ったなしです。

こんな時に、医療・介護・社会保障を削って、軍事費を倍加させる企て、憲法九条を変えて、不戦の誓いから戦争に積極的に参加する国へと舵を切ろうとする人たちもいます。信和会は、法人理念に照らし、大切なものを守るための取り組みをあきらめず続けてまいります。

昨年度も、信和会の各事業所は、ワクチンへの取り組みを継続すると同時に、コロナ陽性となり自宅療養を余儀なくされても、医療と介護サービスを継続できるよう奮闘いたしました。広がる格差の中であえいでいる人たちのよりどころを作るべく、子ども食堂を継続し、あちこちの食材支援プロジェクトに地域の方と共に取り組んでまいりました。

職員にとっても友の会の方にとっても念願だった、東山診療所が現地リニューアルの形で完遂し、喜ばれています。本当に多くの方にご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。また、介護老人保健施設茶山のさが介護医療院茶山のさとなりました。今後さらに川端診療所のリニューアル事業の立案・推進を図っていく所存です。

2022年度の社員総会を終え、これからの時期、夏場の熱中症対策、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら地域活動の再構築、災害対策などの課題に、職員一同まい進してまいります。どうかよろしく申し上げます。

2022年度社員総会を終えて

(報告)

6月22日(水) 120名の社員

(委任状60名含)にご参加頂き、

定時社員総会を開催しました。理事

長の開会宣言の後、1号〜4議案の

提案・討論を行いました。

1号議案の討論ではあすかい病

院からコロナ対策と事業・地域を守

る活動について、東山診療所からは

新しい診療所への期待、茶山のさ

からは介護医療院への転換につい

て報告されました。

事業報告・決算報告等、社員総会

に提案された議案は全て全会一致

で承認されました。(1号議案の発

言詳細及び経営結果は後述)

2022年度スローガン「取り戻

し、強め、前進させよう！コロナ禍

と失政に奪われ、脅かされた、人権・

暮らし・つながる力とまちづくり

を！」実践する事業と経営計画の推

進のために地域の方々と力を合わ

せて全力を挙げて取り組めます。

引き続きご支援を



宜しく願います

《公益社団法人 信和会 2021 年度経営成績について》



	実績	予算比	前年比
事業収益	5,658,116	-227,565	257
入院	2,220,039	-100,335	-23,991
外来	1,408,496	-43,745	8,467
在宅	700,846	-14,414	2,777
保健予防他	195,916	27,235	38,784
介護	1,132,818	-96,307	-25,780
事業費用	5,593,147	-96,961	53,094
人件費	4,037,689	-93,015	22,882
材料費	379,142	-23,822	-7,664
委託費	266,180	-11,066	15,125
経費	550,760	33,066	23,375
減価償却費	218,564	-4,228	-9,099
リース料	33,124	-4,004	641
控除対象外消費税	107,690	6,110	7,833
事業利益	64,969	-130,604	-52,837
経常利益	156,932	-39,949	-1,573
特別損益	-14,388	47,521	36,617
当期利益	142,544	7,572	35,044

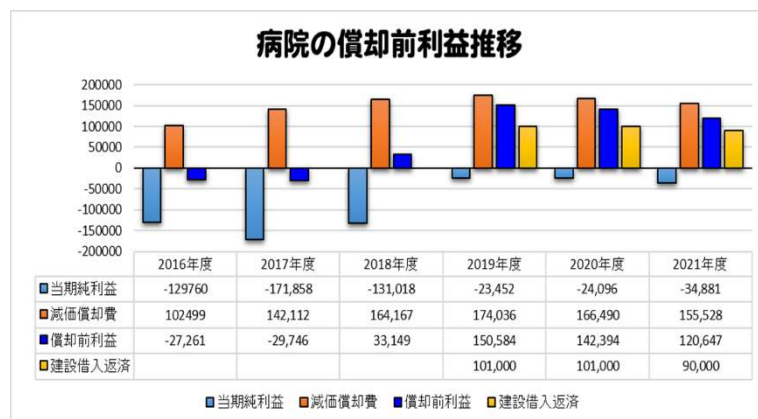
(単位千円)

2021 年度も 2020 年度に引き続きコロナ禍で大変な状況だったが、職員・友の会の努力により、患者・利用者感染者は出たもののクラスターの発生などは抑えることは出来ました。ただ、大きな感染の波が何度もあり、そのたびに行動制限(まんえん防止と緊急事態宣言)となり、入院・入所や通所系サービスなどに大きく影響し、入院収益・施設介護収益・居宅介護収益で予算達成とならず前年実績にも届かなかった。事業費用で予算内に抑えるも、事業収益全体で予算に大きく乖離し、経常利益で 156,932 千円となり、経常利益予算 196,881 千円には 39,949 千円届かず、前年実績比較でも△1,573 千円の結果となりました。当期純利益では 142,544 千円となり、必要利益の 140,000 千円は超過しました。

《2021 年度経営結果の特徴》

- ① **事業収益で予算に大きく乖離** 医療収益では保健予防収益を除く収益で予算に届かず、予算差で△131,883 千円。介護収益では全ての介護収益で予算に届かず、全体で予算差△96,196 千円。
- ② **保健予防収益のみ予算・前年超過し、医科事業所の多くで経常利益予算達成**
医科事業所ではワクチン接種に奮闘し予算を超過、川端・東山・洛北・大宅の各診療所で予算達成
- ③ **病院では予算には届かなかったが、償却前利益では建設資金借入の返済資金を自前で賅える状況**
あすかい病院では、当期利益で△34,881 千円でしたが、償却前利益では 120,647 千円となり、南館建設資金借入返済の 90,000 千円を自前で賅えています。
- ④ **予算には届かなかったが、必要利益の 140,000 千円には超過**

当期純利益で 142,544 千円となり、資金計画上の必要利益 140,000 千円を超過。東山診療所の建設資金を確保し、資金計画通り診療所の現地建替えが出来ました。(財務部)



2022 年 3 月 茶山のさと介護老人保健施設から

介護医療院に転換しました。



「茶山のさと」は 2011 年 11 月 3 日に介護老人保健施設として開設し、高齢となった方々や地域を支えてまいりました。そして、皆さまの更なるニーズに応えるべく、2022 年 3 月 1 日に介護医療院へと転換致しました。これこれまでの介護老人保健施設は病院からご自宅に戻る前に、一定期間の入所とはなりますが、より安定した生活が続けられるよう、運動や生活のリハビリ、また栄養面のサポートをしてまいりました。

今回、介護医療院となったことで、長期療養の入所や看取りまでも施設として行ってまいります。これまでの在宅復帰に向けたリハビリ等の支援は継続しながら、最後までその人らしく過ごしてもらえ、ご家族とも相談しながら一緒にすすめていきたいと思っております。なお、通所リハビリとショートステイも引き続き行っています。



「いのちの平等」「誰もが安心して、住み慣れた地域で暮らせるように」、患者様、利用者様、そしてご家族、地域の方々に寄り添い、ともに前に歩いていけるよう頑張っていきたいと思っております。介護医療院「茶山のさと」を今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

介護医療院茶山のさと事務長 田村貴明

あすかい病院はこれからも地域のかかりつけ病院として皆さんとともに。

当院ではコロナ流行以降 発熱外来、ワクチン外来 入院でのコロナ疑い患者さんの受入れ、コロナ患者さんの往診、クラスターの対応と 感染症の予防、拡大防止、治療に取り組んで参りました。皆様 ご協力本当にありがとうございます。



新自由主義政策の元で社会保障政策は脆弱になっており、急性期病床の削減、保健所の削減が行われてきた中でコロナの流行が私たちの地域もおそいました。

第 6 波ではコロナ患者さんの入院するベッドがないと救急隊から連絡を受け、夜間に往診部が自宅に点滴をもって出向くという、経験したことのない事態も起こっていました。

またこの 4 月には当院の病棟で大規模なクラスターが発生しました。院長として災害時と同じ状況であると判断、治療班や報道班などの役割を分担して全職員で取組み、収束させました。本当にみなさんの激励がありがたかったです。患者さんの命を守る、感染を広げない、日常医療を取り戻す・・私たちは必死でした。

私たちはこのような状況で地域に出ることがほとんどできませんでした。しかし若手医師より「食糧プロジェクト」をしようと力強い発信があり「あすかいプロジェクト」を 3 回行いました。疲弊した地域の方々、職を失い受診も控えている方々の現実を目の当たりにし、私たちは医療従事者として最優先課題「受療権をまもろう」と考えています。あすかい病院はこれからも地域のかかりつけ病院として、皆さんとともに頑張っていきたいと思っております。

京都民医連あすかい病院 院長 中川 裕美子

2022 年 3 月リニューアルオープン

東山診療所は、現在の場所に移って 50 年が経過、約 15 年前から新築移転のために土地探しを開始しましたが条件が調わず、約 2 年前に現地建て替えの決断を行いました。

約 1 年半の建築期間ののち、2022 年 3 月 2 日に診療所の外来を、3 月 3 日に通所リハビリをオープンしました。診療所建設は、友の会患者さんや地域の皆様、法人とエリア職員など、多くの方々の協力があったことが出来ました。

しかし、開設から順調な滑り出しが出来たとは言えませんでした。外来診療は大きなトラブルはなくスタートすることが出来ましたが、通所リハビリは介護保険制度により定員数の制限の問題や当初予定していた職員配置が出来ないことから利用者数に制限をかけたスタートとなりました。法人・エリア内事業所から支援を受けながら運営を行い、ようやく職員も少しずつ増えてきました。今後は安定した通所リハビリ運営を行い、利用者増につなげていきたいと思っています。



多くの方が東山診療所の建替えを心待ちにされていました。しかし、心待ちにしながらも残念ながら様々な理由で新しい診療所を目にする事が叶わなくなった方もおられます。

新しくなった診療所は、多くの方々の期待を背負っていると思っています。その期待に応えるためにも、今後も力を尽くしていきたいと思っています。

東山診療所 事務長 正垣勇気

信和会事業を支える地域協同基金にご協力をお願いします

—基金は信和会の医療・介護活動、経営の支え—

日頃から信和会の運営にご協力をいただきありがとうございます。

信和会は 1991 年、1997 年 2 度の経営危機に陥りましたが、協力金（有利息・無利息債）を募りながら友の会の皆さんと共に経営改善を行ってきました。

信和会協力金は 1933 年から始まり、5 月末現在、451 名の方から 4 億 9 千万円が寄せられています。基金は 2002 年に始まり、現在、415 名の方から 1 億 4 千万円が寄せられています。安井病院（京都民医連センター病院）北館建設協力金として始められた協力金は、京都民医連第二中央病院（現京都民医連あすかい病院）南館建替え、東山診療所現地建替えなど信和会の事業をすすめるうえで大きな力となっています。

2022 年度の基金は 2000 万円目標で取り組みます。「小口・多数」を原則とし、信和会事業を支える地域の皆様やすべての友の会の皆様から地域協同基金 1 口以上のご協力の運動を計画しました。今年度は 600 口（継続含む）を目標に信和会の事業計画を成功させるため基金増資運動に取り組みます。

後期高齢者の窓口負担 2 割が 10 月から始まります。また、介護保険では利用料の引き上げやケアプランの有料化など給付削減をしようとしています。こうした中で信和会の事業所が地域・友の会と協力して東山区、山科区、左京区の 3 つの行政区で医療・介護事業をさらに発展させ、安心して住み続けられるまちづくりを進めるため皆様と一緒にがんばります。ご協力を心からお願いいたします。

尚、2022 年度は診療所の建替え等がなく、協力金の募集はありません。

